(様式第7号)

地域の課題解決のための活動報告

記入日：平成30年6月14日

作成者： 芦田 耕司

地域の課題解決のために行った活動を1つ選び、できるだけ具体的な数値を挙げて報告してください。すべての項目に、一般の人に伝わりやすいようにご記入ください。

*この報告はあしや市民活動センターのホームページに掲載されます。

(登録を公開している団体のみ)

団体名	
NPO 法人 兵庫県暮らしにやさしい防災・減災	
事業名	日時 (期間), 場所
「防災かるたで楽しく遊ぼう! 学ぼう!」	平成29年12月9日 (土) リードあしや 会議室C・D
内容 (実績) *実施したことを具体的に	受益者数
1. 直下地震の減災! (命を守り、家具の転倒防止法など) 2. こども防災かるた大会 自然災害が10以上含まれている防災かるたを仲良く楽しく行い命を守る大切なキーワードを覚えるように励ましました。	児童・園児と父兄及び地元の方など
	参加者数
	スタッフ含む (30) 人
成果 (社会へのインパクト) *どのような良い変化を社会にもたらしたかを具体的に	
<p>災害国日本に住む私たちはいつ、どこで、どんな災害に逢うか判りません。そこで、阪神大震災の時のお話と、防災かるたで楽しく遊びながら防災・減災の正しい知識を学び、「自助」意識と「防災力」を高められるように努めました。</p> <p>再び来る直下地震の減災! (命を守り、家具の転倒防止法など)のスライドとお話とでいきなり来るタテ揺れに「すき間に緊急避難して守ろう命」を励ましました。</p> <p>小学生と園児たちとご父兄や地域の方たちも参加されましたのでいっしょに大きな災害も乗り越えられるように「共助」の気持ちも高まったと感じています。</p>	
今後の展望 (どのように継続、発展するか)	
災害国日本では、正常性バイアス (偏見や先入観) のために防災・減災は「自分は大丈夫」とか、「他人事」と捉えている方が大変多いと感じています。また、大きな縦揺れがなかったことにしている地震専門家が多いため危惧しています。かなり風化している阪神大震災の経験をもとに「自助」意識の向上をめざして啓発活動を粘り強く続けていきます。	

このような活動に加え、芦屋市立の小学校8校のキッズスクエア（放課後こども教室）においてもかるた取りなどで防災・減災啓発活動を継続していく予定です。

いろいろな機会に子供たちが正しい「防災・減災」の知識を学ぶことにより、やがて成人し次の子供たちにその知識を伝えていけるように励まして「災害文化」を築き、国が勧める国土強靱化につながれば幸いです。